

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日： 2025年06月01日

事業所名：児童発達支援 Rasisa

対象人数（保護者）17人 回答者数 15人 回収 88.2%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない わからない	いいえ
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1	
	② 職員の配置数や専門性は適切であると思いますか。	15		
	③ 生活空間は、本人が分かりやすい構造化された環境になっていると思いますか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達などへの配慮が適切になされていると思いますか。	14	1	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15		
適切 な支 援の 提 供	⑤ 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15		
	⑥ 活動プログラムが子どもたちに合わせて工夫されていると思いますか。	15		
	⑦ 保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会がありますか。	14	1	
	⑧ 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15		
	⑨ 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	1	
	⑩ 事業者が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15		
保 護 者 へ の 説 明 等	⑪ 事業所を利用する際に、運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15		
	⑫ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15		
	⑬ 定期的に面談や、子育てに関する助言等の支援が行われていると思いますか。	14	1	
	⑭ 保護者同士の連携が支援されていますか。	12	3	
	⑮ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応していると思いますか。	15		
	⑯ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15		
	⑰ HUGやインターネット媒体等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15		
	⑱ 個人情報の取り扱いに十分留意していると思いますか。	15		
	⑲ 「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15		
	⑳ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（療育の見学や療育への参加など）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	1	
	㉑ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15		
	㉒ 懇談会や、保護者会等の開催により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催や、きょうだいのことについて面談の中で相談できるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	1	
非 常 時 等 の 対 応	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1	
	㉔ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	13	2	
	㉕ 事業所により、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15		
	㉖ 事故等（けが等含む）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況について説明がなされていると思いますか。	15		
満 足 度	㉗ 子どもは通所を楽しみにしていますか。	15		
	㉘ 事業所の支援に満足していますか。	15		
	㉙ 子どもは安心感を持って通所していますか。	15		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Rasisa				公表日		2025年 6月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・個別、ペア、集団の時間が分けられている所。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・1対1もしくは1対2での関りが出来ている。	・もう1名職員が入職する中での、事務作業時間の捻出、活用の仕方は再検討			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・視覚的にわかりやすくなっている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・必要に応じて必要な物を用意している。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・個室が用意され、必要に応じて使用している。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	・日々の話し合いで行っている。	・目標設定をもう少し明確、具体的にしていく必要あり。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・今年度からの事業立ち上げなので、今年度初実施。	・今年度の保護者評価を基に、具体的な業務改善につなげていく。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・日々の話し合いの中で行っている。 ・毎日話し合っている。				
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・より力を入れたい。 ・全員で研修に出ている。				
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	・公表されている。 ・ホームページを作成し公表。				
	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・全員で話し合っている。	・より客観性のある評価を取り入れていく事が必要 →標準化された評価ツールの導入			
	12	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・全員分時間をかけて話し合っている。				
	13	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・Googledriveで毎回確認できるようにしている。				
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	・次年度活用予定。	・より客観性のある評価を取り入れていく事が必要 →標準化された評価ツール（検査）の導入			
	15	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5						
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・毎日行っている。	・月の大筋（月案的なもの）を職員会議の中で検討していく。			
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	・話し合ったり、資料をみんなで探したりしている。	・各々の自己研鑽と共に、日々職員同士の情報共有より互いが新たなヒントやアイデアを得られるようにしていく。			
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5						
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	・支援内容の具体と言う所ではもう少し時間を作る必要がある。 ・毎日、午前午後行っている。	・具体的な支援内容を詰める時間がもう少し必要 ・業務の内容（事務的なこと）で朝礼が終了していることが多い。当日のあそびの内容等もさらに深めていけるといい。			
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・毎日行っている。				

	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・かなり時間をかけて行っている。	
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・全員で行っている。	
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・全員で行くこともある。	
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・医療機関とはつながっていない。	・ホームページ、リーフレット等も活用しながら、より関係機関との連携を広げている。
	25	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	・支援計画を渡している。	・学校とのより密な連携の必要性あり。
	27	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		・情報共有をしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
保護者への説明等	30	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	31	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・積極的に声をかけている。	
	32	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	33	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	34	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・実施はしたが、回数をあまり設けられなかった。	・次年度より多く回数を設けていく。 (年間活動予定の中に懇談会枠を今年度より多く設ける)
	35	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	36	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			・次年度HPを活用しながら施設の取り組みを外部に知らせていく事も視野に入れる。
	37	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
非常	38	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	39	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・手洗い指導など定期的に行い、HUGを通して保護者に伝えている。	
	40	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	・チェックリストは用意しているので、これからさらに活用していきたい。	・火災等訓練に加え、施設の点検をもう少し出来るといい。
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	42	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	食物アレルギーのある子どもはいるが、食事提供がないため、医師の指示書に基づく対応場面がない。	



時 等 の 対 応	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・火災点検訓練に加えチェックリストは用意しているので、これからさらに活用していきたい。	・火災等訓練に加え、施設の点検も加えて行っていく。
	44	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	・不足している部分あり	・保護者への情報発信の機会を増やしていく。
	45	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	・研修の時間をもう少し確保できるという。	・次年度、研修時間をより確保していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	・説明はしているが、不明確な部分あり。	・どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織として認識と対応を深める必要あり。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Rasisa			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 24日 ～ 2025年 3月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年 2月 24日 ～ 2025年 3月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々の療育を職員全員で振り返り、子ども理解につなげている所。 ・日々の療育のねらい、意図、様子を保護者に詳しく伝えている所。	・職員同士の情報共有がしやすいよう、クラウドの活用。できる限りの情報を一つに集約している所。 ・クラウドの利用をすることで、過去の療育記録が一目で全てわかるようにしている。そのため、どのような職員が療育担当となったとしても連続したねらい・意図の中療育を行えるようにしている。	・その日に行った療育のねらい・意図を確実に翌日に引き継ぐためのミーティング時間の見直し。（情報をより十分に引継ぎ、翌日の療育に臨めるよう） ・個人情報以外でのミーティング記録、決定事項などは、HUG内ではなくdrive内に入れ込んでいく。
2	・利用児のほぼ全員が、日々施設に通所してくることを楽しみにしている。	・養護面（情緒の安定・健康と安全の確保）を基本とした上での療育を行っている。まずは子どもたちが施設に来ることでホッとできる、安心できる遊びがある。利用児童たちが施設に来ることを楽しみにしたうえで、個々の得意、興味関心のある遊びに課題となる要素を組み込んでいる。	・専門性を高めていくために、年間研修計画を見直し、より計画的に職員が専門的な研修を受けられるようにしていく。
3	・子どもたちだけではなく、保護者も施設に来ることでホッとできる。	・アプリを利用した日々のやり取り、LINEを利用したの情報交換、定期的な面談の時間を作る事で、保護者にとって身近な子育てパートナーになれるようにしている。 - 心理職も在中しているので、子育て以外の各種相談も受けれるようにしている。	・相談対象をRasisa利用者だけではなく、地域子育て家庭に広げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事務作業時間の消化の仕方 （業務手順が不明確な所がある。）	・朝、夕の時間で業務手順が不明確な部分あり。 ・事務作業時間をどのように効率よく使っていくのが不明確な部分あり。 ・支援内容のすり合わせと情報共有	・毎週月曜の職員会議の時間の毎回の定例に週・月の療育の見直しを持たせられる時間を組み込む。 ・朝・昼・夕の事務連絡時間と業務手順を再度明確に打ち出し、職員同士の認識をすり合わせていく。
2	・職員研修機会の不足	・研修機会の充実と共に、認識が不足している領域のアップデート（虐待防止・安全計画・・・）	・年間研修計画の見直しと共に、障害児通所支援領域でのスキルアップのための研修費を保証。
3	・保護者同士がつながる機会の不足	・開所初年度という事もあり、保護者向けの行事が不足していた。	・懇談会等、保護者同士がつながる機会をより多く設け、年間計画の中に入れ込んでいく。